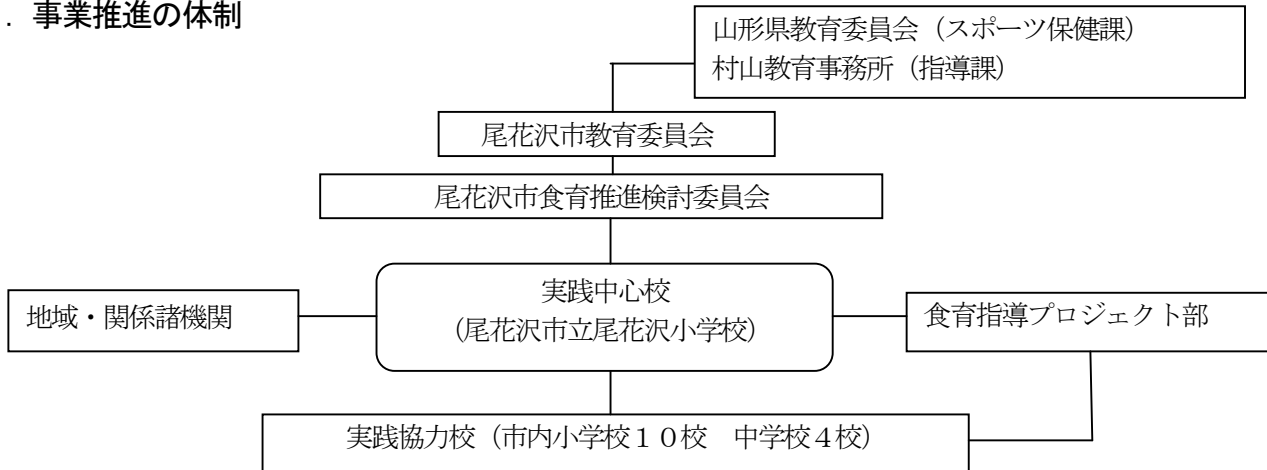


再委託先名	山形県尾花沢市
-------	---------

1. 事業推進の体制



2. 具体的取組等について

テーマ1	学校における食に関する指導のあり方 —給食の時間・道徳・特別活動・総合的な学習の時間を中心に—
<p>I 実践中心校の取り組み</p> <p>1 研究テーマ・概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 実践中心校である尾花沢小学校では、学校の校内研究テーマを <p style="text-align: center;">「かかわり」で学びを深める子どもの育成</p> <p style="text-align: center;">—「食」を通じた授業づくりから—</p> <p>とし、学校全体で、授業において食育の推進を進めてきた。当初は道徳や総合的な学習の時間を中心にして考えていたが、国語や社会・理科・家庭科等でも食に関する題材は扱えるものと考え、教科領域の枠を広げて研究に取り組んだ。食育に関する内容を教材・題材として取り上げ、教科の特性を考えながら、「食」にかかわる心と体の健康課題に迫っている。</p> <p>具体的には授業のなかで、食に関する指導目標6観点に沿って教材・題材の活用を図るとともに、どの目標に迫ることができるかを指導案のなかにも明らかにして授業内容を構成している。</p> <p>【食に関する指導目標 6観点】</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>①食事の重要性、食事の喜び、楽しさを理解する。 【食事の重要性】</p> <p>②心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方を理解をし、自ら管理していく能力を身につける。 【心身の健康】</p> <p>③正しい知識・情報に基づいて、食物の品質及び安全性等について自ら判断できる能力を身につける。 【食品を選択する能力】</p> <p>④食物を大切にし、食物の生産等にかかわる人々への感謝する心をはぐくむ。 【感謝の心】</p> <p>⑤食事のマナーや食事を通じた人間関係形成能力を身に付ける。 【社会性】</p> <p>⑥各地域の産物、食文化や食にかかわる歴史等を理解し、尊重する心をもつ。 【食文化】</p> </div>	

2 授業実践例

◎授業実践例1（詳細）

- (1) 実践教科・領域：2年生 生活科
- (2) 単元名：「春いただき！大作戦」
- (3) 関連食育目標：食事の重要性、食事の喜び、楽しさを理解する。〔①食事の重要性〕
- (4) 単元プラン概要・食育との関連構想：校庭の草花に諸感覚をはたらかせた触れ合い活動をし、ビンゴカードを使い1年生と関わりをもたせ、その後、教室や給食時に花を飾る楽しさに気づかせる。春をわたしたちの体に取り入れることにつなげ、家族と協力し山菜などの春を感じる食材や旬の食材を知ることにつなげる。食を通して工夫したことを振り返り家族一緒に春をいただく食事の喜びや楽しさに気づくことを目指した。

(5) 実践した学習活動及び食育に関わる活動

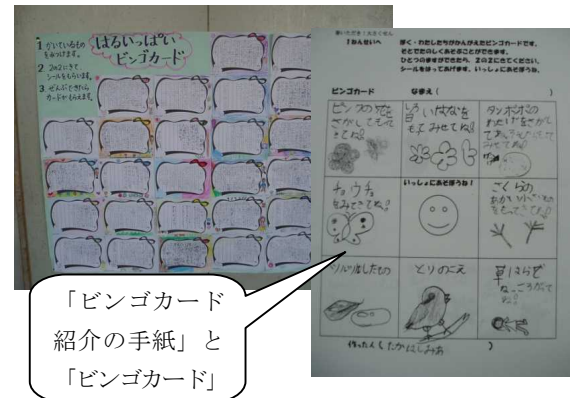
1次 校庭の春を見つけよう

①春をみつけたよカード



2次 1年生に春をプレゼントしよう

②ビンゴカード

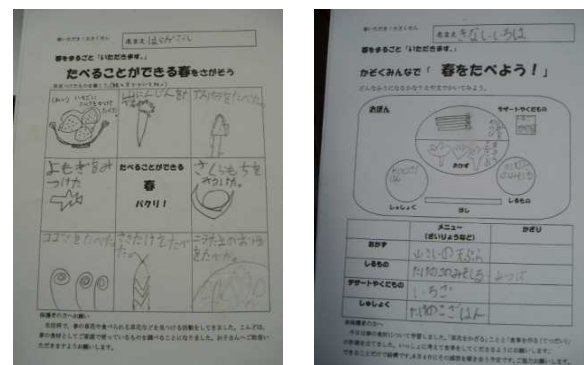


3次 春をまるごと「いただきます」

③楽しい給食



④家族みんなで春を食べようカード



(6) 授業の成果と課題 [成果]

- 学校での春を探す活動から、給食や教室の雰囲気春の草花で飾る経験をし、家庭での食卓の工夫に生かすことができた。はりきってメニューを考える子どもの姿を連絡帳で知らせてくれた保護者の方がたくさんいた。家族で一緒に買い物に行き、または、山に行き、食材を選び、料理することがとても楽しくうれしい時間だったようだ。
- 自然に恵まれた地域を生かした山菜など旬の野菜に子どもの頃から慣れ親しんでいることが分かった。

〔課題〕

△今後の生活科の活動の中にこれまでの取り組みを生かし、四季を感じる給食の献立や食材に興味を持たせ、家庭でも楽しく食事ができるように継続して取り組んでいきたい。
△いろんな食材に関心を持ったことを生かして、栄養についても関心を持たせて食を楽しませたい。

◎授業実践例2

- (1) 教科・領域：1年生 道徳
- (2) 単元名：ありがとうの気持ちを持って 〈2- (4)感謝〉
- (3) 関連食育目標：④食物を大切にし、食物の生産等にかかわる人々への感謝する心を育む。
〔④感謝の心〕

《指導案の一部》

「食に関する指導の目標」について

・本授業では「食に関する指導の目標」の④「感謝の心」を達成するために、授業を展開していく。食材が料理として食卓に上がるまで多くの人の手が携わっていることを学習し「感謝の心」に迫っていく。異学年交流では様々な活動場面で上学年と関わることが多く、教えてもらったことに感謝する心を育てていく。

○調理師をゲストティーチャーとして活用し、本日の献立のごぼうの料理について説明を行った。



(料理を作る人の気持ちになってみよう)



(調理師の話)

◎ 授業実践例3

- (1) 教科・領域：2年生 生活科
- (2) 単元名：「秋をまるごといただきます」
- (3) 関連食育目標：⑥各地域の産物、食文化や食にかかわる歴史等を理解し、尊重する心をもつ。
〔⑥食文化〕

《指導案の一部》

「食に関する指導の目標」について

・本授業では「食に関する指導の目標」の⑥「食文化」に関しての目標を達成するために、授業を展開していく。「月見」という伝統行事を取り上げ、自分の経験を振り返ったり、家族に聞いたり調べたりしながら、食物と生活とのつながりを実感させていく。また、学習したことを生かして、実際に「お月見会」を計画し、開くことにより日本の伝統行事への理解も深めている。

○栄養教諭とのTT授業で、授業の終盤に栄養教諭がお月見に込められた話を行った。



(月見について調べたことの発表)



(栄養教諭の話)

◎その他の授業実践例（★は公開研究発表会で授業を公開）

NO	学年	教科・領域	単 元 名	関連食育目標
1	1年	学級活動	何でも食べて元気な体をつくろう	②
2	1年	生活科	はなややさいをそだてよう	①
3	★2年	生活科	秋・いただき～サツマイモで遊ぼう・学ぼう・味わおう～	①
4	3年	国語科	れいをあげて説明しよう「食べ物のみみつを教えます」	⑥
5	3年	学級活動	「給食パワーアップ大作戦」	④⑤
6	★4年	学級活動	「食の力」～腸相から見る野菜の力～	②
7	4年	学級活動	「元気アップ大作戦！（おやつ編）」	②
8	5年	社会科	「米づくりのさかんな庄内平野」	③④⑥
9	5年	家庭科	「元気な毎日と食事」	②⑥
10	5年	社会科	これからの食料生産とわたしたち	③
11	6年	家庭科	「理想の朝食をつくろう」	①②
12	★6年	体育科	病気の予防「生活習慣病を予防しよう」	②③
13	6年	家庭科	おいしいおかず作り隊「くふうしよう 楽しい食事」	①②⑥
14	★特別支援	生活単元	「収穫祭をしよう」～サツマイモパーティーをしよう～	①⑤

3 公開研究発表会の実施

- (1) 期 日 平成24年11月22日（木）
 (2) 会 場 尾花沢市立尾花沢小学校
 (3) 公開授業 低学年・中学年・高学年・特別支援学級と4学級について（上記★印）授業を公開し、
 参加者の先生方から貴重なご意見をいただいた。県内各地から参加者を募り、これまで
 での研究の成果を発表し、事後研究会では活発な話し合いをすることができた。

- (4) 講演会 ①演 題 「食育のこれからの方向性」
 ②講 師
 山形大学 地域教育文化学部 生活総合学科
 講師 三原法子 氏



II 実践協力校の取り組み

- 実践協力校では、各学校において工夫を凝らし、学校行事、教科や道徳の授業、学級活動、総合的な学習の時間を活用して食育に関する取り組みが行われた。

【各学校での取り組み】

学校名	教科・領域	内 容
福原中部小学校	国語科 「すがたをかえる大豆」	畑をつくることから枝豆を育て、体験活動と国語の学習を結びつけ、食べ物への関心を高めた。
寺内小学校	特別活動（学級活動） 「昔の給食献立体験」	学校給食が始まった当時の給食を、地元の食材で提供するとともに子どもたちがおいごりを作った。
荻袋小学校	特別活動 「森のめぐみ学習会」	市農林課の協力を得て、味噌造りを体験したり原木なめこを料理したり地元食材の良さを感じた。
明德小学校	総合的な学習の時間・特別活動 「野菜づくり」	畑を作り各種の野菜を育て、時期毎に収穫して料理したり生のまま味わったりする活動を行った。

高橋小学校	生活科・総合的な学習の時間 「さつまいも作り」	さつまいもの栽培を通し、いのちの育みを実感させ収穫・料理することで命のめぐみを感じた。
玉野小学校	特別活動 「ふるさと大好き日本郷土料理めぐり」	都道府県の郷土料理や特徴を調べ、食への関心と日本の食の豊かさを学んだ。
上柳小学校	行事 「全校いも煮会」	育てた里芋を材料にして収穫の喜びやお世話になった人への感謝の気持ちを表した。
常盤小学校	総合的な学習の時間 「米づくり体験活動」	米作りの体験を通して、米食や米づくりへの関心を高め収穫への感謝の気持ちを育てた。
鶴子小学校	生活科・総合的な学習の時間 「そば栽培」	そばの栽培を通して、作物を育てる苦労や収穫の喜び、農業や地域の良さを感じとった。
福原中学校	特別活動 「生徒会の委員会を中心とした食育活動」	生徒会の委員会の活動として朝食調べや給食だよりを発行して食への関心を高め意欲づけを行った。
尾花沢中学校	特別活動 「食に関する指導実践」	栄養教諭を中心に食育に関する授業を行ったり、校内放送を使い食材や料理に関する紹介を行った。
常盤中学校	行事（勤労生産） 生き方を磨く「常盤農園を作ろう」	学級農園を作り、作物を計画的・創造的に栽培することで作物への愛着・感謝や生命への尊さを感じとらせる。

III 教職員対象の講演会の実施

市の学校保健研修会で市内の教職員を対象に食育に関する講演会を行った。

1. 日 時 平成24年7月27日（金） 13時～17時
2. 会 場 尾花沢市立尾花沢小学校
3. 演 題 「“おいしそう” から始まる食育」
4. 講 師 京都府立大学大学院生命環境科学研究科
教授 大谷美貴子 氏



テーマ2 学校と家庭との連携による食に関する指導の充実

I 実践中心校の取り組み

1 朝食簡単レシピの作成

- 実践中心校の尾花沢小学校では、保護者に朝食における簡単で栄養のある料理を夏季休業中に実際に作ってもらい、「朝食簡単レシピ」の募集を行った。約200ほどの応募があり、9月25日に母親委員会を開き、8つの候補に絞った。10月18日に、母親委員会で実際に料理し、5点を選び、簡単「朝ごはん」レシピ集を作成し、市内全小中学校の保護者に配布した。



選んだレシピを調理する母親委員のみなさん

配布した「簡単『朝ごはん』レシピ集」

2 食育啓発だより「ぱくぱく通信」の発行

- ・各家庭向けの食育だより「ぱくぱく通信」を発行して、食に関する行事や話題を掲載することで、家庭での食育の啓発材料として活用した。



3 保護者対象の「食育講演会」の実施

実践中心校の尾花沢小学校において、保護者対象の講演会を実施し、食育に対する保護者の啓発を図った。

- ①日 時 平成24年9月28日（金） 14時～17時
- ②会 場 尾花沢市立尾花沢小学校
- ③演 題 「“食”を通した子育てとは」
- ④講 師 宮城学院女子大学食品栄養学科
教授 平本福子氏



II 実践協力校の取り組み

1 尾花沢市立名木沢小学校 「夏休み親子クッキング」と「マミーズクッキング教室」

- (1)ねらい
 - ・料理を親子で一緒に作ることを夏休みの課題とし食への関心を高める。
 - ・料理作りを通して、母親同士の交流を図るとともに食に対する意識を高める。



夏休み後に提出されたレシピ



マミーズクッキングに参加した保護者のみなさん



できた料理：お寿司のケーキ、ツリーサラダ、イチゴのサンタさん

2 尾花沢市立玉野中学校 「野菜作り」「祖父母学級での蕎麦打ち」

- (1)ねらい
 - ・畑の耕し方、苗の植え方・除草などの作業を通して、集団内での協力やコミュニケーションの仕方、適切な関わり方などを学ぶとともに、収穫した作物を調理し食べることで、収穫の喜びや調理の仕方を学ぶ。
 - ・祖父母との活動を通して文化と技術を伝承する。祖父母と会食することで感謝の心を育み家庭での共通の話題とする。



みんなで協力し、土を耕すことから始める

自分たちで打った蕎麦を祖父母と一緒に会食する



テーマ1～2に共通する具体的計画

○先進校視察について

- ・期 日 平成24年5月9日（水）
- ・視察地 山形県小国町立小国小学校
- ・視察者 古瀬美鈴（尾花沢小学校・栄養教諭） 大類恵子（尾花沢小学校：食育研究主任）
井上亜恵美（玉野小学校・栄養教諭）

小国小学校では、町教育委員会の指導主事が町全体の取り組みや中心校の小国小学校の実践を紹介してくれた。小国町の研究の進め方は、実務的な部分を含め町教育委員会が主になって進めていたようである。学校ではできる範囲のなかで、親子食育体験活動や講演会等を行い食育を進めていた。

○実践中心校の研究の成果発表

- ・期 日 平成24年11月22日（木）
- ・内 容 尾花沢小学校で、低学年、中学年、高学年、特別支援学級での公開授業を行い、県内の各学校に案内し多くの方々から参加いただいた。また、山形大学の三原法子先生よりご講演をいただいた。

○簡単「朝ごはん」レシピ集の作成・配布

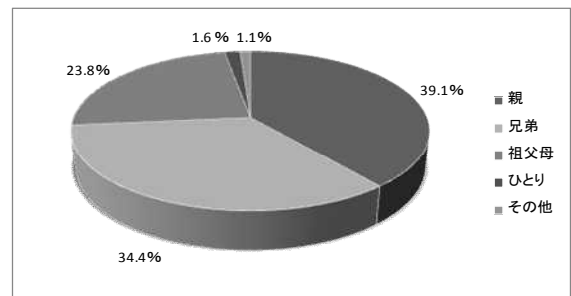
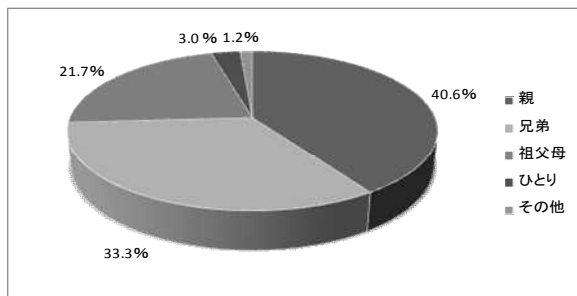
- ・期 日 平成24年11月
- ・内 容 実践中心校の尾花沢小学校において、保護者から募集した簡単朝ごはんレシピのなかから優れたものを選抜して、実際に調理して評価し、5点にしばり「レシピ集」を作成し、市内全小中学校の保護者に配布し、朝食の大切さを知らせて簡単に栄養のある朝食づくりを進める。

数値で変化のあった事項について

○夕食はいつも誰と食べますか

【6月】

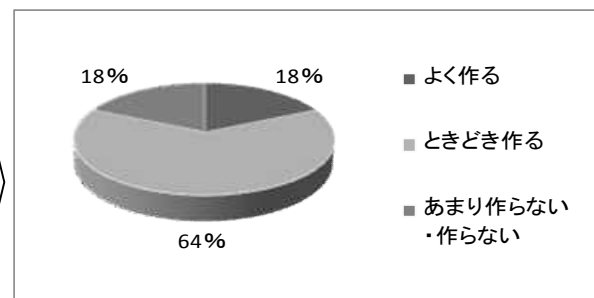
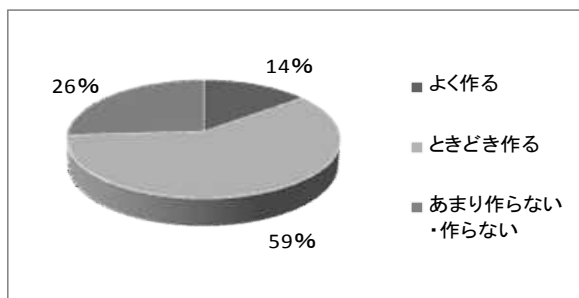
【1月】



○家庭で郷土料理や伝統食を作られたことはありますか

【6月】

【1月】



6月と1月に行ったアンケートでは、ひとりで夕食を食べている児童・生徒の割合が3.0%から1.6%へと減少した。また、家庭で郷土食や伝統食を作ることを問う質問では、よく作る・ときどき作る割合が73%から82%に増加した。

事業全体を通じて、特に効果のあった方策について

- ・授業を中心に食育の推進を進めるなかで、教職員全体で共通認識・共通理解を図ることができ、意欲的に授業実践に取り組むことができた。
- ・様々な教科において食をテーマに取り上げることで、多方面から食育について考えるきっかけとなり、教職員・児童・保護者ともに食に関する意識が高まった。
- ・教科指導に教材として食育のエッセンスを組み合わせることによって、学習が充実してきた。
- ・食品を題材にすることで、教科の学習活動を活性化させることができた。
- ・題材で扱ったこと（おやつづくり、給食をしっかりと食べようとする意識）を、実生活に活かそうとしたり実践したりしている子どもの姿が多くみられるようになった。
- ・授業での学びを通して家族とのかかわりを持ち、食材について話し合ったり選んだりすることで、食に対する意識の変容を見ることができた。
- ・栄養教諭や調理師の専門的な説話や身近な調理師の話聞くことで、意識して給食を食べるようになった。
- ・児童は食について触れる機会が増え、食生活や食べものについて関心を持つようになった。
- ・保護者向けの食育講演会や朝食レシピ作りを通して、食についての関心が高まり、家庭のなかでも食育について考えたり、話し合ったりする機会が増え、食の大切さを再認識できた。
- ・学校全体で食育の研究に取り組むことで、栄養教諭が担任と協力し真剣に話し合ったり、関係者と連携することで、広い視野に立つことができ、さらに計画・実践を通して大きく成長し自信をもつことができた。

今後の課題(今回の事業により新たに見えた課題など)

- ・授業における食育において、教科のねらいと食育のねらいを結びつけることが難しい。教科のねらいと食育目標をさらに吟味し、単元プランの構成において扱う題材や教材、関連して指導できるところを焦点化して実践していくことで、さらなる成果を見いだしていきたい。
- ・家庭において家族が共に食事をしている割合が少ないことから、家庭での食育の大切さを様々な方法で計画的・継続的に伝えていく必要がある。
- ・食育についての講演会や話を聞くなかで、食の大切さを改めて認識することができた。さらに、専門的な話を聞く機会をつくり、より多くの保護者に関心をもってもらうようにしていきたい。
- ・地域の生産者の話を聞く機会が少ないので、各学年や学級で計画していきたい。
- ・事前の姿と事後の姿を比較し、どのような変容があったかを子ども自身が認識して行くことが重要である。これまでの授業での学びが、その後の生活でどのように活かされているかを振り返る場を設けて行く必要がある。